

3 水稲の品質検査状況

(1) 最近の高温年の水稲の品質概況

<12年産>

水稲うるち玄米の1等比率は78.9%となっており、一部に高温による被害及びカメムシによる被害が見受けられるが、全体的には粒の充実も良く品質は良好である。

なお、2等以下に格付されたものの主な要因は、

- ①高温の影響による心白・腹白粒の混入(26.1%)
- ②カメムシ類の被害による着色粒の混入(19.7%)
- ③胴割れ粒の混入(13.8%)

によるものである。

<11年産>

水稲うるち玄米の1等比率は62.8%となっており、過去5ヶ年において最も低い比率となっており、全国的にカメムシ類の被害による着色粒が発生したこと、東北、関東、北陸及び近畿の一部の地域において高温の影響による心白・腹白粒が発生したこと及び中国、四国及び九州において天候不順や台風の影響により充実不足や未熟粒が発生したことにより品質は低下した。

なお、2等以下に格付されたものの主な要因は、

- ①高温の影響による心白・腹白粒の混入(42.4%)
- ②カメムシ類の被害による着色粒の混入(22.4%)

によるものである。

<6年産>

水稲うるち玄米の1等比率は72.6%となっており、過去5ヶ年において平成4年産(77.6%)に次ぐ高い比率であり、全体的には粒の充実も良く品質は良好であったが、東北、北陸等の一部の地域においては、高温の影響による心白・腹白粒の発生及び倒伏・冠水等による発芽粒の発生により品質が低下した。

なお、2等以下に格付されたものの主な要因は、

- ①高温の影響による心白・腹白粒の混入(26.7%)
- ②カメムシ類の被害による着色粒の混入(12.8%)

によるものである。